

刈草焼却の煙軽減など提案

建設分野の最先端技術が紹介されている会場＝名古屋市中千種区、吹上ホール

建設分野の最先端技術や研究などを紹介する「建設技術フェア2021in中部」(国土交通省中部地方整備局など主催、岐阜新聞社 岐阜放送など後援)が14日、名古屋市中千種区の吹上ホールで始まった。今年「建設現場のDXが未来を創る」をテーマに、中部地方の254社・団体が出展ブースを構えている。15日まで。

県内からは、UAV活用研究会、大目コンサルタント、南濃コンクリート工業、ティコク、全国落石災害防止協会、自在R連続基礎グループ、岐阜大地盤工

建設技術フェア 名古屋で始まる

254社・団体が出展



学研究室、アールボ、山辰組、東洋スタビ、松岡コンクリート工業、金太、マルアイ商事、揖斐川工業、岐阜県が参加している。

このうち、山辰組(揖斐郡大野町)は堤防などの除草作業で発生する刈草を燃やす装置のリースサービスを紹介。野焼きでは不完全燃焼が原因の煙が立ち込めて地域の苦情につながりやすいが、提供する装置は空気を送り込むことで火力を

高めて煙を軽減。燃焼時間も短縮し、作業効率が2倍になるとPRした。

会場には、第一線で活躍する建設系技術者に質問できる「学生交流ひろば」も設けられている。